

## 2 - 3 - 2 特別史跡 名古屋城

名古屋城は、御三家筆頭尾張徳川家の居城であり、初代の城主は、江戸幕府を開いた徳川家康の第九男義直である。慶長 14 年（1609）、家康みずから築城を決定し、翌 15 年に石垣普請が着工され、17 年に大小の天守や各櫓が完成した。普請を命じられたのは加藤清正ら西国の大名 20 名で、城内の石垣には目印として各大名が刻んだ刻印が多数残っている。

慶長 20 年（1615）に本丸御殿、元和 3 年（1617）には二之丸御殿が完成し、二之丸御庭、御深井御庭なども整備され、名古屋城は天下の名城としてその名をとどろかせた。

明治維新後、名古屋城は陸軍省の所管となり、名古屋鎮台司令部や兵舎がおかれたが、明治 26 年（1893）に宮内省に移管され「名古屋離宮」となった。昭和 5 年（1930）12 月、名古屋市内に下賜されると同時に国宝に指定され、翌年から一般公開が始まった。昭和 7 年（1932）には、名古屋城全域が特別史跡に指定された。

昭和 20 年（1945）5 月、第二次世界大戦末期の空襲により、天守や本丸御殿など国宝建造物 24 棟が焼失したが、焼失を免れた隅櫓と 3 つの門、空襲の直前にとりはずされていた本丸御殿障壁画 1047 画が、戦後重要文化財に指定された。

昭和 34 年（1959）、天主閣と正門が、ほぼ昔どおりの外観で再建された。

平成 21 年（2009）には本丸御殿の復元工事が始まり、平成 25 年（2013）に玄関・表書院部分が完成した。現在も、平成 30 年（2018）の全体完成をめざし工事を進めている。

説明板より